

なぜ、木が人と地球環境に優しいのか 本物のいい家を考える

快適さだけ追求してエネルギーを無駄に消費してはいけない時代です。総合的に考えると木材は最もエコロジーな素材です。その素材の良さを伝統工法と最新の技術で、省エネルギーで快適な住宅を造ることが可能です。真の意味で財産になっていく住宅を考えて。

エコロジー住宅＝木造住宅

家に住まうのは人です。家は、長い時間家族と過ごす一番大切な空間です。人は、生物であり、自然を味方にして暮らすことで、シックハウス症候群を防ぐことになりやすくなります。そのためには、自然環境や自然素材を有効に利用することが不可欠です。

これからは、ますます環境共生の時代といわれています。木は、建設資材の中で生産、加工から建設、そして解体までの過程で炭酸ガス排出が断然少なく、さらに成長中は、光合成によって酸素を生産できる素材です。家を建設した時に山に植林さえすれば、100年の時を経て再び建設できるまでに成長し、木材として使える循環資源です。切り出された後も成長時、組織に炭酸ガスを同化して蓄積して



外断熱は、断熱材が通気できる空間をふさいだり、木部に直接吹き付けたりしないため、木の呼吸を止めず、壁内の空気を室内にも流通させることができます。木の持つヒノキチオールなどの芳香成分のおかげで、室内にいても森林浴効果が得られ、さわやかで高気密住宅にありがちな息苦しさを少なくできることもメリットです。



「冬はヒーター一台で家中暖房でき、夏はエアコンがなくても快適に暮らせます。一年を通じ大変暮らしやすい家です。冬場でも一ヶ月平均の光熱費が、全部で13000円程度(床面積40坪)しかかからないので驚いています。太陽光発電にすれば、ゼロでいけますね!」と大変ご満足されています。

株式会社 国興
田中一級建築士事務所
(有) 田中製材所
国興ホーム
〒399-0027
長野県松本市寿南1-7-22
お問い合わせは
☎0263-58-2095(代)
www1.odn.ne.jp/cocco/

ターを通すことで、配管が汚れることを防ぎます。通気経路を一元化して管理するので、複数の機械を設置する必要がありません。そのため、冬は、冷気を室内に直接取り込まないので、不快感を少なくできる上部屋間の壁内での結露を抑え、システムの機能低下を防ぎます。

快適に経済的に暮らす

機器を設置しエネルギーを使い、冷暖房をすれば、いくらでも快適な環境を造ることは可能でしょう。でも、環境共生や日々の光熱費を節約することには、相反することになります。そうならないためには、先人の日本人の知恵から答えを見いだすことができるでしょう。

外断熱のルーツは、竪穴式住居と考えられます。雨水の浸入を防ぐため、周囲を盛り上げ穴を掘り、柱や梁を建て、萱や藁で家全体を包み込み、屋根の頂点には換気口を設け、「いろり」というシンブルな暖をとる。これは、地熱を有効に利用し、分厚い断熱層で内側の熱容量を大きく、温度変化が少ない省エネルギー住宅だったことが想像できます。

国興ホームは、1934年創業の関連会社・田中製材所が元になっています。田中製材所は、地元では知名度の高い製材所で、原木の仕入から造作用木材の製材まで行っています。信州木材製品認証工場でもあり、県産材の利用拡大にも寄与しています。現在の社長は三代目で、長年にわたって木のプロフェッショナルとして、得られた材木加工の技術を活かし、木材資源を有効に利用し、よりエコロジーな家づくりがどうやれば実現できるかということを考え、国興ホームを設立しました。

安心して暮らせる住まい

一方、自然の過酷な環境から人を守ることも家の大切な機能です。この度の新潟中越地震では、調査の結果、基礎がしっかりした昭和56年以降に建築された、木造住宅のダメージが少ない事がわかりました。国興ホームでは18年前から土台・柱にシロアリ防蟻剤を使わない強度のある木材として、ヒノキやヒバを使い、梁には、集成材や人工乾燥材より強度の高い、自然乾燥無垢材



を使用しています。これらの材木をプレカットで精度よく加工し、接合部を強固にできます。さらに基礎は、床下からの湿気を防ぎ、地盤と一体で建物を支持できるよう、「基礎断熱耐圧盤コンクリート造」としています。これらを、金物でしっかりと締結することで、地震に強い家にできます。当然、地盤調査も行い、適正な地盤補強を行うことも怠りません。また、断熱材は、外壁下地になる木材を外側から強度の高い専用ビスで固定するので、六面体となり、耐震補強としての効果があります。そして、住む人や使用する木材が長期間健康でいられる様に考慮しています。木材が健康でいられるということは、家の耐久性、特に地震が起きたときに、とても重要なことです。そのためには、家の壁内にある木材が湿気で腐朽菌に冒されないように、常に新鮮な空気を通気させる必要があります。同時に、室内に汚染物質を滞らせないこともできる上、カビやダニの発生を抑えることもできるので、シックハウス症候群対策にもなります。屋根面や柱の外側、基礎の外周を断熱する「外断熱工法」は、この壁内の通気が合理的にできる工法です。取り入れる空気は、必要に応じて熱交換を行い、特許工法の独自システムで断熱層で囲まれている家の隅々まで全体に、空気が行き渡ります。外部から空気を取り入れるときにフィル



国興ホームの外断熱と換気システム(スカイシステム)は、特許取得者と共同開発し、施工で18年の実績を持つまでになりました。今では、多くのお客様から「これからも、いい家を建て続けてください。」と応援されています。「商品として、作り手都合の家づくりでなく、住む人が健康で家と共に成長できる、エコロジーであること。」を開発のポリシーに、お客様と共に「いい家づくり」を続けています。やはり地域のことを知った地域の工務店なら安心です。